

2026 年度法科大学院入試（A 日程）【一般論文試験問題】 出題趣旨及び採点基準

〈出題趣旨〉

本論述問題は、①一定の長さの文章を読み、その内容を的確に理解し、整理して要約する力、及び、②法的な紛争が生じている原因を的確に把握したうえで、その解決策を見出す力を測ることを目的とするものであった。

〈採点基準〉

問1（30点）

問1は、①の力、すなわち、読解力及び要約力を問うための問題であった。日本の定年制度の特徴（及び変遷）を理解したうえで、日本の労働市場において「なぜ定年後に労働条件が切り下げられる」慣行が生まれたのかを本文に照らして適切に要約することができるか否かを確認した。

問2（30点）

問2は、②の力を問う問題であった。「定年後の労働条件の切下げ」を巡り労使の間で紛争（両者の間で見解が食い違う状況について「齟齬」という表現が使用されている）が生じていることを受けて、その紛争をどのようにして回避又は解決すべきかを自分の力で考えることができるか否かを確認した。出題に際して、定年後再雇用の性格の変容にふれることも求め、その点にも着目しつつ紛争回避・解決策を提示することができるか否かを確認した。

その他

- ・ 議論の流れの一貫性や首長の明確さが目立つ答案に、最大プラス 40 点。
- ・ 字数が極端に少ない答案は大幅減点。誤字脱字は著しい場合にのみ最大マイナス 20 点。